

2016年1月21日
株式会社ツヴァイ
(証券コード: 2417)



ミライカレッジ仙北ツアー

首都圏女性向け体験型交流ツアー開催

地元男性との交流などを通じて、仙北市に暮らすことの価値を体験

イオングループの結婚相手紹介サービス、株式会社ツヴァイ（本社：東京都中央区 代表取締役社長：縣厚伸）は、秋田県仙北市の結婚支援事業を受託し、地域活性化の視点を加えた婚活イベント「ミライカレッジ仙北」を運営しています。このたび、メインプログラムとなる「体験型交流ツアー」を2月20日（土）～21日（日）の1泊2日で開催いたしますのでご案内申し上げます。

イベント名：「ミライカレッジ仙北ツアー」 <http://goo.gl/138bLG>

日時：2016年2月20日（土）～21日（日）

内容：首都圏在住の独身女性と仙北市在住・在勤男性との交流ツアー

定員：男性、女性 各20名

実施主体：仙北市市民福祉部子育て推進課

■厳寒の時期でのツアーで、雪国の暮らしを体験する！

仙北市名物「田沢湖高原雪まつり」に合わせて実施することで、観光的な要素も取り入れつつ、厳寒の時期にツアーを実施することで、女性には雪国での暮らしを実感していただくことも意図しています。

■仙北市長も交えたタウンミーティングも！

地元男性に加え、フレンドリーな人柄と笑顔が魅力的な市長自らに、仙北市の魅力、地域の将来性について語っていただきます。仙北市で暮らすことへの疑問や不安も直接質問できる機会です。



■カップル成立を全力でサポート！

ミライカレッジの人気講師がツアーに同行し、気になるお相手へのアプローチ方法などを気軽に相談にのるなど、スタッフ全員でカップル成立を徹底的にサポートします。気になったお相手をチェックする「好印象チェックタイム」など、カップル成立をお手伝いする仕掛けも盛りだくさんです。

■ツアー前に男女コミュニケーション力をアップできるセミナーで、万全の準備を！

都市から地方へのヒトの流れをつくることは簡単ではありません。今回のツアーは、事前に仙北市内での現地独身男性向けのプログラムと、東京都内での独身女性向けのプログラムを経ての実施となります。1月30日（土）には、直前セミナーとして、男性を対象にコミュニケーション力アップセミナー（<http://goo.gl/md70Ek>）をわらび座（仙北市）にて開催予定です。



株式会社ツヴァイ

URL <http://www.zwei.com>

■ 「ミライカレッジ仙北」プロジェクトの流れ

	6月	7月	11月	1月	2月	
仙北 男性	ワークショップ 【地域力UP】	婚活力UPセミナー (オンライン) 【人の魅力UP】		婚活力UPセミナー 【人の魅力UP】		
		モニターツアー			体験型 交流ツアー	交際、移住へ
首都圏 女性			都内 PRイベント 【興味喚起】		♡カップル誕生	

① 「未来デザインワークショップ」(2015年6月10日開催)

先行チームとして、仙北市の自治体職員、商工会議所青年部、農協、観光協会などから、町おこしに興味のある有志男性が集まり、仙北市の未来や、自分たちの仕事の未来を考える「未来デザインワークショップ」を実施。

② 「ネット中継オンラインセミナー」(2015年7月17日開催)

地元先行メンバーの男性陣に向け、オンラインでセミナーを開催。婚活力をアップして「モニターツアー」に備えました。

③ 「モニターツアー」(2015年7月25日～26日開催)

都内から5名の独身女性が参加し、トマトの収穫や郷土料理づくり体験など、地元男性と1泊2日で交流しました。女性たちの視点を通して、仙北の魅力を確認。



④ 「ミライカレッジ仙北カフェ」(2015年11月20日開催)

秋田郷土料理店にて、独身女性を対象に実施した仙北市のPRイベント。仙北市の食材を使った料理や地酒を飲食しながら、門脇仙北市長がトップセールスし、仙北市で暮らすことへの女性からの質問に答えました。



【受託の背景】

秋田県は、2014年「日本創生会議」の人口減少問題検討分科会が区分した「消滅可能性都市」の割合が96.0%と47都道府県の中で一番厳しい状況となっています。そのような状況下、NPO法人秋田移住定住総合支援センターが主催し、2014年11月末に、秋田県仙北市と男鹿市を舞台として、当社が「AKITA 婚ツアー」を実施しました。県外から独身女性40名が参加する中、半数以上の21組のカップルが誕生し、そのうち3組は半年で入籍にいたるなど、少子化対策の一助となることができいております。「ミライカレッジ仙北」は、その実績を受けて、2015年度の仙北市の結婚支援事業として採用されました。単なる婚活イベントではなく、「結婚」や「移住」までを視野に入れた地域活性化を実現すべく、新たな工夫を加えての実施となります。